

令和3年4月30日

学校だより



5月号

横浜市立美しが丘東小学校
学校長 佐治 秀朗

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/es/utsukusigaokahigashi/>

ナガミヒナゲシ

校長 佐治 秀朗

ゴールデンウィークが始まり、木々の鮮やかな新緑も少し深みが加わる季節になってまいりました。このたびは新型コロナウイルス感染拡大で東京や大阪を中心とする緊急事態宣言の発令も三度目となり、気を緩めることはできませんが、感染状況を確認し、その都度判断しながら教育活動を進めてまいりたいと存じます。

コロナウィルスの感染拡大によって遠くに出かけることもかなわなくなったことで、近隣を散歩する機会が増え、公園の片隅や道端にオレンジ色の4枚の花びらを持つ可愛い花を見つけるようになりました。花の名は「ナガミヒナゲシ（長実雛罌粟）」といます。

ナガミヒナゲシは地中海地域を原産とするケシ科の1年草で、4月の中旬から5月にかけて、日本国内の各地で見られるようになりました。花が咲いた後の子房が細長い実となり、一つの実の中の種は数千から数万にも及ぶと言われています。そのため繁殖力がとても強く道路の片隅や公園の草地にはもちろん、コンクリートの上の土埃がたまっているような場所に花を咲かせることもあります。また、「ナガミヒナゲシ」の茎の乳液状の汁に毒性があり、皮膚のかぶれや炎症の原因になってしまうという説が流布しているため、雑草として扱われ、駆除されてしまうことも少なくないようです。一方で、繁殖力も他の植物を駆逐するほどではなく、毒性も弱くほとんど影響ないとして、近年では観賞用の植物として積極的に栽培される方も増えているそうです。

子どもたちがこの花を見つけて「ポピーの花が咲いている」と言っていました。まさに「ナガミヒナゲシ」は英語名がロング・ヘッディッド・ポピーといわれるように、ポピーの仲間です。今、この花が、美しが丘小学校の車両門の隣にある花壇で見ることができます。もちろん種を植えたわけではありません。おそらく、風でとばされた種が花壇の中に広がって、まるで花壇に植えられた主人公のように花を咲かせています。

この花を見つける時期になると、まもなく初夏がやってきて、運動会の準備や練習を始める季節の訪れを感じます。それと同時にこの花が可憐でありながら、強くたくましく生きている様を実感しています。

美しが丘東小学校の子ども達には、優しく心豊かに育てて欲しいと思うと同時に、変化の激しい時代の中で、「ナガミヒナゲシ」のようなたくましさも、ぜひ身につけていってほしいと願っています。



ナガミヒナゲシの花
HP上ではカラーです